

プレスリリース

2021年11月11日
国境なき医師団 (MSF)

ハイチ：燃料・水・輸送手段の不足で医療危機の恐れ

ハイチの首都ポルトープランス周辺で武力抗争の激化により治安が悪化、燃料の供給に大きな支障が出ている。公共交通機関や飲み水の供給にも影響を及ぼし、医療施設の運営と患者の移動を脅かしている。現地で活動する国境なき医師団 (MSF) は、首都圏の医療施設への燃料搬入を呼び掛けている。

やむなく医療活動を縮小

MSF は緊急措置として燃料消費を抑えてきたが、活動先のタバル地区外傷・熱傷病院は先週、やむなく医療活動を縮小し、重体患者のみへの治療に切り替えた。同病院と、MSF の関連施設であるテュルゴ地区の救急施設では、補充が届かなければ、3 週間後には発電機の燃料が底をつく見通した。シテ・ソレイユ市の MSF 救急施設でも 2 週間半後には燃料が尽きるおそれがある。

タバル病院では、発電機への依存をさらに減らすため、MSF は太陽光発電パネルの設置を進めている。燃料不足で、医療スタッフの多くが移動手段を確保することもままならない中、中心的なスタッフが出勤・帰宅できるよう、臨機応変の対応を続けている。

こうした問題から、公立・私立を問わず、ポルトープランス周辺のほぼ全ての保健医療施設が患者の受け入れを停止、または、救急の治療のみに制限。さらに、一部は閉鎖に追い込まれている。燃料不足が続けば、さらに閉鎖が相次ぐおそれもある。

MSF は通常、必要に応じて患者を他の施設に紹介しているが、これも日に日に難しくなってきた。MSF 医療コーディネーターのジャン・ジルベール・ンドンはこう振り返る。「先日、呼吸困難の患者をシテ・ソレイユの MSF 救急施設で受け入れました。容体が安定し、他の施設への紹介を進めたのですが、普段の紹介先である 4 つの施設から受け入れを断られてしまいました。燃料がないため、受け入れられないのです。その患者は 5 つ目の施設でようやく受け入れられました。ポルトープランス周辺の複数の医療施設は、燃料・電力・医療の不足という共通の課題を抱えています。どの施設にも定期的な燃料補給が必要です」

燃料不足が水の供給を困難に

燃料不足は食料価格を高騰させ、水の供給にまで影響を与えている。ハイチの水衛生局 DINEPA

は 11 月 7 日、首都圏の広範囲で水の供給を続けるための燃料が足りないと発表。公式の統計によると、水不足に直面する地域のひとつ、シテ・ソレイユだけで 26 万 5000 人余りが暮らしている。

「医療施設も、患者も、住民も清潔な水を必要としています。これらの地域に水が届かなくなれば、医療施設が燃料不足による閉鎖の危機にあるときに、水系感染症やその他の緊急の医療ニーズが増えかねません」とドンは危機感をあらわにする。

医療の需要は依然として非常に高い。テュルゴアの MSF 救急施設は産科病院ではないにもかかわらず、他の病院が業務を縮小しているため、連日、陣痛期の妊婦を受け入れている。

その一方で、周辺地域の混乱を理由に患者が受診を遅らせることも懸念される。デルマ 33 号線道路沿いの MSF 診療所は、性別およびジェンダーに基づく暴力（SGBV）の被害者を対象としているが、ここ何週間かは患者が減少。診療に訪れた人も、公共交通機関が使えないため、首都圏内を何時間も歩いてくるほかなかったという。

以上

本件に関するお問い合わせ先：

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当：舘 俊平、山田瑞穂

携帯：080-2344-0684

E-mail: press@tokyo.msf.org <https://www.msf.or.jp>

 メディア向けツイッターアカウント：@MSFJ_Press